

研修のまとめ

浜松市立鹿玉中学校

英語科のねらい

英語を読むこと、聴くこと、話すこと、書くことを通して、積極的に生徒同士がかかわることによって相手を認めたり、自分の考えや思いをより詳しく伝えたりできる力を育てたい。そのために、言語の具体的な使用場面や状況にあった適切な表現を考え、お互いの考えや気持ちを伝え合う「協働的な活動」を仕組む。

(1) 実践内容

英語科の実践（第3学年）

単元名：自分の意見を言おう（4時間）

本時の目標：よりよい表現の英文を作り、聞き手に伝わるように話し方を工夫することができる。

4人グループで言いたいことが伝わるように、表現を練り合う

車のセールスマンとして、ALTが車を買いたくなるように、車のよさをアピールする。お互いがもつ英語の知識を出し合うことで、適切な英語表現を検討しながら、自分たちが勧める車のよさを伝える英文を練り上げることができた。（1・2／4時間）【書く】



より効果的なアピールの仕方について、アイコンタクト、声の大きさ、話すスピード、表情などから検討した。ALTの好みや家族構成などにかかわる「強調したいところは全員で声をそろえて言う。」などの表現方法を考えることができた。（3／4時間）【読む・話す】

発表会で自分たちの意見を伝え、感想を聞いたり、質問に答えたりして、新たな考えや価値に気付く

違うグループの発表を聞いたり、自分たちのグループの発表に対するアドバイスをもらったりすることで、新しい表現に気付いたり、値引き交渉や質疑応答などその場で即興的な対応をすることのおもしろさに気付いたりすることができた。【聞く・話す】



(2) 成果・課題

授業に書く・話す・聞くを中心とした協働的な学びを取り入れたことで、生徒は友達と話し合ったり、共に学習したりするよさや楽しさを実感するようになった。協働的な学びによって、考えや理解を深めることができたと感じる生徒の割合も高くなっている。

生徒同士が、友達の考えを聞くことで、同じ価値観を共有して安心したり、違った意見を聞いてさらに違う意見を出したりするなど、一人だけでは深まらない表れが見られた。